

オーガスチンのまなざし



主教 小林 尚明

タイトル

主教就任後、4ヶ月月が経ちました。力不足を感じますが多くの人たちの助けを頂き、前に進むことが出来ます。

教務局長の小南晃司祭から「主教さんの思いを伝えるのならば神のおとずれに書かれるのがいいのでは」と勧められ今回から書くことにしました。

神様はこの世界、私たちの周りで働いておられます。その働きを見つけて、皆さんと分かち合う、そういうコラムにしたい、という思いを持ちました。そこで広島復活教会のある信徒さんに相談すると、こんな素敵なタイトルとカットが出来てきました。主教としての働きの中で、神様の働きや恵みをみなさんと分かち合えたらと思います。

オーガスチンって誰？

私の洗礼名は、ヒッポの

オーガスチンです。カンタベリーのアフリカの都市の名前が付けられる4〜5世紀に活躍した神学者であり主教です。若い頃は放蕩に身をもち崩したと言われますが、母モニカの篤い祈りとイタリヤ・ミラノの主教アンブロシウスの影響を受け、ミラノの自宅にいた時、隣家の子どもから「取りて読め」という声を聞き、近くにあったパウロ書簡「ローマの信徒への手紙第13章13〜14節の「主イエスを身にま」とえ、肉欲をみたすことに心を向けてはならない」を讀んで回心したと言われます。

私は1960年8月3日生まれですが、翌年の3月21日付で、山陰の境復活教会からオーガスチン岡上典夫司祭が福山諸聖徒教会に赴任して来られます。そして4月2日のイースターに福山での最初の洗礼式という事で、岡上先生の洗礼名をいただきました。

私も青年時代に放蕩に身をもち崩した(?)時がありました。そんな私をまるでルカ伝15章にある放蕩息子の父親のように優しく接してくださいました。西川正文司祭も洗礼名はオーガスチンです。

(神戸教区主教)



徳島インマヌエル教会

賀川豊彦記念 がんカフェとくしま

谷 睦子

2014年、私に卵巣がんが見つかりました。医師からその事を告げられた時はびっくりしました。そして、その年に摘出手術を受けました。

ある日、血液ガンになった私の友人が、横浜で順天堂大学医学部教授樋野興夫先生主催の「がん哲学外来」の講演会へ行き、先生のお話を聞いたことで心が癒された、という連絡がありました。すると、鳴門キリスト教会で樋野先生の講演会があることを知りました。私は神様が与えてくださったチャンスと思い、出席しました。

講演が終わって、「私の通っている教会が徳島市内にあります。田舎の教会ですが、講演会を企画したら、来ていただけますか？」と樋野先生にお尋ねしますと「一

人でも私の話を聞きたい人がいれば、行きますよ」とうれしい返事。そして、明けて2016年1月11日に徳島伝道区会があり、その年の秋に行われる研修会の企画として樋野先生の「がん哲学外来」の講演会の企画を提案し、皆さんの承認を得ました。

その場で牧師が樋野先生に連絡し、9月19日の日程をお尋ねしましたら、丁度その日は何も予定がなく、日程まで決まりました。これは、神様のご計画だったんだ、と天にも舞い上がる思いでした。

がん哲学外来の ネーミング

徳島インマヌエル教会で開催されるがん哲学外来のネーミングが話し合われ、「賀川豊彦記念がんカフェ」という名称が提案されましたが、あまりに大きな名前前で、牧師も即答できず、後日、牧師は鳴門にある賀川豊彦記念館に赴き、相談して、やっと「賀川豊彦」先生のお名前を使う決断をしたようです。

さて当日、徳島新聞にも広告を出していただき、準備万端でしたが、どのくらいの方々が来てくださるか心配していましたが、100名ほどの方々が礼拝堂一

杯に集まり、先生のお話を聞くことができました。

徳島インマヌエル教会でのがんカフェは2016年10月から毎月第4土曜日午後1時半〜3時の時間帯で当教会を会場に開催しています。

お茶を飲みながら、毎回20人くらいが6〜8人のグループで、病気の話や家族の人の世話の大変さなどを話し合っています。またお医者様や心理士の方もスタッフとして参加してくださっています。

このカフェに来られる方が、少しでも心が癒されることを願っています。お友達などを誘い合って、ちょっとコーヒーを飲みに来られませんか。お待ちしております。

(徳島インマヌエル教会 信徒)

